

第207回 河川文化を語る会

会報「河川文化」100号を迎えて

令和5年3月14日

芝浦工業大学名誉教授
会報「河川文化」編集委員長

守田 優

講演内容

1. 会報「河川文化」の概要
2. 創刊のころ（1997～2002）
3. 編集委員会の発足と編集方法（2003～）
4. 河川文化とは？（文化人類学の＜文化＞）
5. 河川文化の記事内容
6. 河川文化の位置づけ（河川行政との関係）
7. ＜親水＞について
8. 100号という新たな出発点
9. アンケートと「検索システム」整備
10. 河川文化の今後をどう考えるか
11. まとめ

はじめに

日本河川協会の定期刊行物

月刊誌『河川』 第一種正会員・第三種正会員

日本河川協会が発行している月刊誌で、**昭和17年**に創刊された長い歴史をもつ。

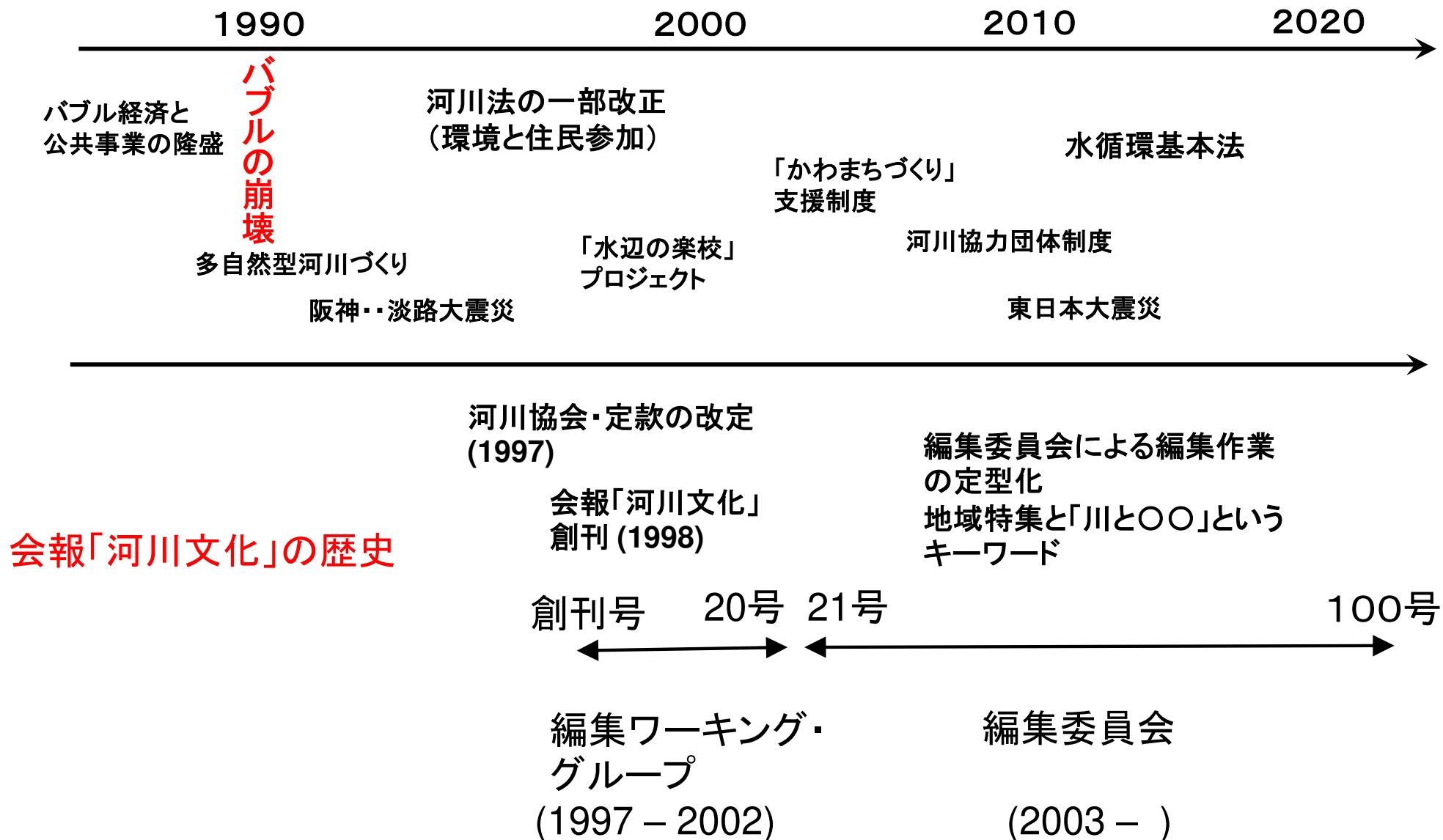
内容は、**河川行政**の直面する課題を毎月特集し、**河川行政**に関する最新情報を提供する。

会報『河川文化』 第二種個人会員

個人会員の**会員相互の情報交換と意思疎通を目的に**、21世紀の新たな河川文化が生まれることを期待して、会報名は、「河川文化」と名付けられた。

平成10年3月創刊。年4回発行。

「河川文化」発刊の歴史 概要



創刊のころ 1997~2002

河川法改正と1990年代

(河川法・平成9年の改正)

第一条(目的) この法律は、河川について、洪水、津波、高潮等による災害の発生が防止され、河川が適正に利用され、流水の正常な機能が維持され、**及び河川環境の整備と保全**がされるようにこれを総合的に管理することにより、国土の保全と開発に寄与し、もつて公共の安全を保持し、かつ、公共の福祉を増進することを目的とする。

第六条(河川整備計画)

河川管理者は、前項に規定する場合において必要があると認めるときは、公聴会の開催等**関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講じなければならない。**

* 長良川河口堰問題に関する第120回国会・参議院

「我が国の河川行政の閉鎖的体質が招いた長良川河口堰に係る諸問題に関する質問主意書」(平成3年・1992年 5月8日)

情報公開法の制定(平成11年・1999年)

行政文書の開示を請求する、国民の権利について定め、行政機関が保有する情報の原則公開を義務づけた。

特定非営利活動促進法(NPO法)の制定(平成10年・1998年)

河川協会、定款の改定（平成9年12月）

定款 第2章 会員 （種別）

第5条 本協会の会員は、正会員及び特別会員の2種とし、正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般社団・財団法人法」という。）上の社員とする。

（1） 正会員は、本協会の目的に賛同して入会した者で、次に掲げるものとする。

イ 一種正会員 地方公共団体及び地方公共団体で構成される団体

ロ 二種正会員 個人

ハ 三種正会員 法人及び団体

「当協会は、団体を中心とした昭和15年以来の活動から、昨年12月に定款を変更し、大勢の方々に個人会員になっていただき、「安全」「快適」「自然」の3つを基本にして、人間にとっても自然にとっても多くの有形無形な価値を持つ川をつくるために、個人会員が一緒になって巾広い活動を展開することになりました。」

（「会報発刊にあたって」・小坂 忠 日本河川協会会長）

二種正会員数

H9: 1229, H10: 3125, H11: 3938, H12: 4027, H13: 3995, H14:4047, ……

会報「河川文化」の創刊にあたって

「河川文化」発行の主旨と編集方針について(創刊号「座談会」より)

(河川法改定を受けて)

「明治の河川法から100年は、治水と利水の工事／技術偏重の時代ではなかったか、と思いますが、これからの新河川法の時代は、親水(アメニティ)や環境(エコロジーと景観／風景を含む住民の生活環境)への強い要請がありますが、**川が再び市民の生活の中を流れる時代**となる訳ですね。」

(会報は「川の市民」の(誌上)サロン)

「こういう世の中の動きの中で、日本河川協会は個人会員制度を導入されましたが、これまでの企業とか法人とか役所単位の会員、職場に縛られた社員だけでは時代の変化について行けなくなりそう。そういう危機感が、**柔軟にものを考え、自由に発言できる個人会員制度の主旨、目的ではないか、**と私は勝手に推測していた訳ですが、お話を伺って納得しました。」

「会報の趣旨にある通り、**会員相互の意思疎通や意見交換が主体**ですので、是非とも会員の方々からの積極的な応援をいただけるようにすべきだと思います。」

会報「河川文化」への投稿の原則

3つの原則・7つの約束（「創刊号」に明記）

“自由”

- ・河川や水に関する話題なら何でもかまいません。
- ・投稿内容は会員個人の意見であり、会員所属組織の見解ではありません。
- ・相手の立場を考え、特定の個人、団体の誹謗中傷はしません。

“活発”

- ・幅広い提案と問題提起を目指します。
- ・会員相互の会報として河川を愛する仲間の輪を広げます。

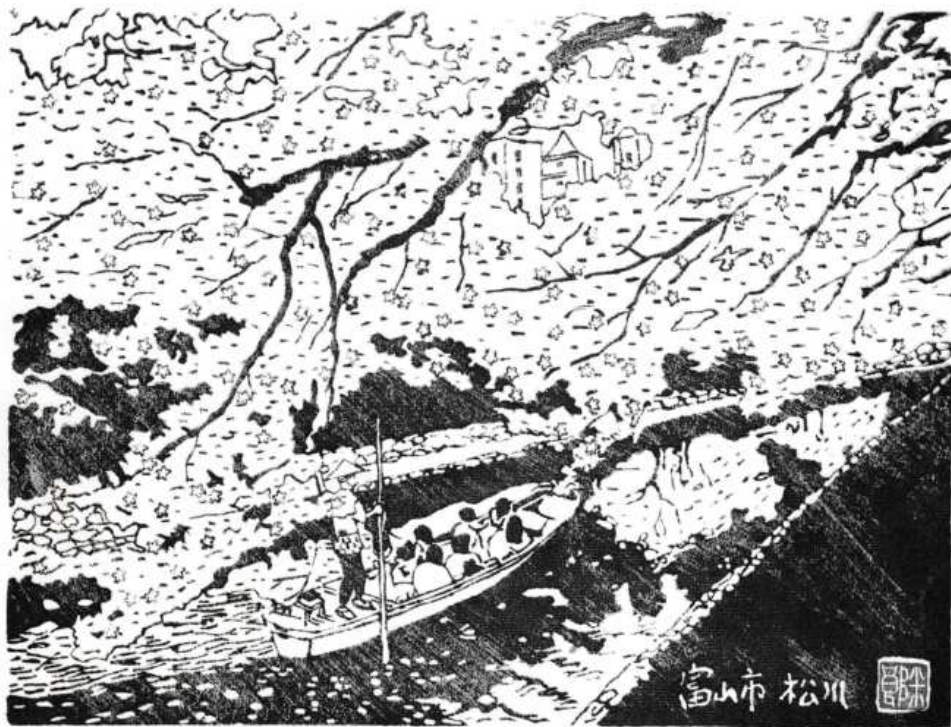
“冷静”

- ・意見の趣旨を簡潔かつ明確にします。
- ・フェアプレイの精神を大切にします。

河川文化

創刊号

人と川との新時代へ



Contents

会報発刊にあたって	2
【座談会】	
「河川文化」発行の主旨と編集方針について	2
【シリーズ／河川文化を語るⅠ】	
川の「恵み」をうけるまちづくり	5
渡部 一二	
会員の声	12
市民グループ紹介	14
イベントニュース	15
協会活動日誌	15

社団法人 日本河川協会

会報「河川文化」の構成

会報の編集は、会報ワーキンググループが担当する。

- * 巻頭エッセイ
- * 河川文化を語る
- * 会員の声
- * 川だより
- * 市民グループ紹介
- * 個人会員のサークル活動紹介
- * ‘私の薦める’、この一冊
- * イベントニュース
- * オピニオン
- * わが川の土木遺産
- * 川の博物館

表紙の絵は
毎号変わり
ます。

1-2号 森田米郎
3-6号 若山晴海
7-100号 瀬古一郎

「会員の声」記事の紹介

「河川文化・雑感」・「遠い記憶」・「日本一の芋煮会」・「川で泳ぐ」・「清流小川の思い出」・「春の小川」・「河川への想い」(2号)

「都幾川をわたる」・「難しいこと」・「水系主義・流域思考」・「水辺の吸引力」・「魚とり」・「川で遊ぶ」・「郷愁の水辺空間“感動的自然との交流”」・「川を歩く」(3号)

「夏の日思い出」・「由良川雑感」・「凍てつく滝」・「ブランタス河との付き合い」・「大河川と田島さんの写真」・「川の冬景色」・「時は流れて」(4号)

「春の川」・「岩手の春の川」・「春の川の思い出」・「川は誰のものか」(5号)

「黒部川の夏」・「都市河川の新しいつきあい方」・「川は呼んでいる」・「ある流域のこと」(6号)

「カラの魚籠」・「夏の川に想う」・「夏の野川公園」・「川と祭り」・「川の顔」・「夏の遊」・「河川の治水と利水」・「川面にうつる大輪の花」(7号)

「アユ」・「秋篠川の源流から大和川河口まで歩きました」・「北の大地の石狩川」・「川(沢)とカニと漆の木」・「はらこめし」(8号)

「水の汚れを考えてみよう」・「河川環境図の提案」・「ひなあらし」・「川の音」(9号)

「川の価値を汚さぬように」・「春・初夏の川とのつきあい方」・「川の薫り」(10号)

「オピニオン」記事の紹介

「安全第一国家日本で 厳しさ教える川を見直そう」(4号)

「BORNFREE」・「都市域の中小河川整備について」・

「自由と自己責任」(5号)

「川と安全・新たな試み」・

「美しい河川とその安全柵を作るには」(6号)

「親水利用と危険責任再考」(7号)

「リスク空間とキャンプ事故と不知火高潮」(8号)

「川からの贈り物を我が子に引き継ぐために」(8号)

「鶴見川流域は大自然！」(9号)

「生き残りにかける時代」(9号)

「護岸と多自然型川づくり」(11号)

「水と砂漠と文明、それぞれの因果関係」(14号)

都道府県別個人会員（二種正会員）組織の運営と助成について

「個人会員が全国各地の川で交流し、活発な活動を展開するためには、各都道府県において、**個人会員組織**の設立が期待されるところです。当協会では、上記の組織の設立及び運営を助成するために、事業経費の一部を下記要領にて補助する制度を設けました。この制度を積極的に活用して、個人会員組織の設立をお願いします。」(社)日本河川協会事務局(平成11年3月)

「あおもりの川を愛する会」(H10)

「彩の川研究会」(H11)

「にいがた川の会」(H14)

「とやまの川探訪会」(H12)

「大阪の河川を愛する会」(H16)

「徳島の川づくりを考える会」(H24)

「ふくおかの川と水の会」(H19)

「とちぎの川懇話会」(H12)

「ちば河川交流会」(H11)

「“とやま”川の会」(H12)

「愛知・川の会」(H15)

「やまぐち水辺交流会」(H13)

「えひめ川の会」(H22)

「利根川流域交流会」(H25)

etc.

創刊号～20号（1997～2002年）

- ・＜河川文化＞の雑誌としての手探りの時期
- ・川を愛する会員の交流の場、「川の市民の誌上サロン」という理念を追求した。
- ・会員からの自主的な投稿をもとにした編集に限界が見え始めた。
- ・編集体制が、ボランティアを主体としたため、やや脆弱な面もあった。

→ 編集委員会の設置へ

編集委員会の設置と 新たな編集方針 2003～2022

編集委員会の編集方針

移行期：21号～25号（2003年3月～2004年3月）

21号：従来の編集方法（会員の声／サークル活動報告を主体）

22～25号：地域特集

富山県特集

山口県特集

青森県特集

佐賀県特集 etc.

個人会員組織

“とやま”川の会

やまぐち水辺交流会

あおもりの川を愛する会 etc.

に協力をお願いする。

26号「川と〇〇」（川と河川文化のキーワードを結合）

（まず、テーマを決め、編集委員が執筆者を探して担当）

市民活動紹介／会員の活動紹介を掲載する。

会報「河川文化」の構成

26号(2004年)より、
構成が定型化する

- 巻頭言
- 「河川文化を語る」一編
特集記事 7編の記事

1) テーマ「川と〇〇」に関して
2) 地域特集

- 寄稿
- 会員の活動紹介
- 市民グループ紹介

- 連載 「落語と川」、「万葉の川」
- 川の本
- 協会活動日誌

* 101号より、「川の風景」をあらたに追加

「河川文化」特集記事のテーマ

「川と〇〇」のキーワード

ふれあう	こども	観光	うた	魚文化
癒し	防災	コンテスト	戦い	特産物
涼む	舟	祭り	民話	酒
風景	水害と市民活動	釣り	文学	湧水
桜	渡る	漁撈	源流文化	滝
	交流		近世の治水技術	遺産
	食文化	温泉	古代の治水と文化	鉄道
	教育			疎水
	市民の活動			城
	舟運			橋
	防災文化			流れを変える
				近世の都市用水
				森林
				運河の歴史と文化

「河川文化」の地域特集

- ・富山県特集(第22号)
- ・山口県特集(第23号)
- ・青森県特集(第24号)
- ・神田川特集(第38号)
- ・堀川特集 (第42号)
- ・「なにわの川」特集(第45号)
- ・千葉県特集(第49号)
- ・四国特集(第52号)
- ・信濃川特集(第56号)
- ・筑後川特集(第60号)
- ・「沖縄の川」(第67号)
- ・「越国の川」(第68号)
- ・千葉県特集(第69号)
- ・「岐阜の川」特集(第73号)
- ・最上川特集(第76号)
- ・「海外の川と文化」(第78号)
- ・「京の川」特集(第80号)
- ・北海道特集 (第86号)
- ・琵琶湖特集(第87号)
- ・「静岡の川」(第91号)
- ・「紀伊半島の川」特集(第98号)

特集と連動し、毎号異なる「河川文化」の表紙



第40号「川とコンテスト」



第101号「荒川」特集

瀬古一郎 編集委員による

河川文化とは？

＜河川文化＞という言葉について

河川の文化的側面について語られることは多かった。

- ・ 「川の文化」 ～ 舟運を主体に文化を語る
北見俊夫 （日本書籍 1995年4月）
- ・ 「河川文化のフォークロアー治水文化を中心としてー」
末次忠司（「河川」日本河川協会, No. 590 1995年9月）
フォーカス: 神社、祭り、石碑、水害の伝承
- ・ 「歴史・文化からみた日本の川ー日本人と川ー」
川井正彦・水野正光（リバーフロント研究所報告 第14号 2003年10月）
キーワード: 歴史・文化、個性ある地域づくり、日本文学、和歌、俳句、今様、
芸能、歌舞伎、能、民俗、川の民、祭り、映画、近代文学

＜河川文化＞という言葉が初めて定義された。

「人々の暮らしや生活と川とのかかわりから生まれた
地域独特の文化」

「川の百科事典」（丸善株式会社・2009年）

<文化>とは？

－文化人類学による定義

「文化とは後天的・歴史的に形成された、外面的および内面的な生活様式の体系(system of explicit and implicit designs for living) であり、集団の全員または特定のメンバーにより共有されるものである。」

(Kluckhohn & Kelly, 1945)

(祖父江孝男 「文化人類学入門」中公新書・1979)による紹介

文化とは、生活行動様式である。

「私はさらに一步を進め、文化の内容または項目を、その所在により、技術と価値の両面をつうじて、人間の(1)意識の中にあるもの、(2)行為の中にあるもの、(3)外界の物体の中にあるものの三種に分けて考える」

(石田英一郎「文化人類学入門」講談社学術文庫・1976)

<河川文化>とは、河川と人々の生活のかかわりのなかで形成され、共有された、(1)河川への意識、(2)河川へのかかわり（行為）、(3)河川とのかかわりが対象化されたもの、である。

河川文化＝川と暮らしの関わり

意識

＜意識のなかの河川文化＞

＝癒し、景観、……

行為

＜日常性のなかの河川文化＞

＝散歩、憩い、水遊び、魚とり、……

＜非日常性における河川文化＞

＝祭り、集会（イベント）、源流探訪……

対象化

＜歴史的に形象化（シンボル化）無形・河川文化＞

＝精霊流し、鵜飼い、……

＜歴史的に形象化（シンボル化）有形・河川文化＞

＝記念碑、治水碑、……

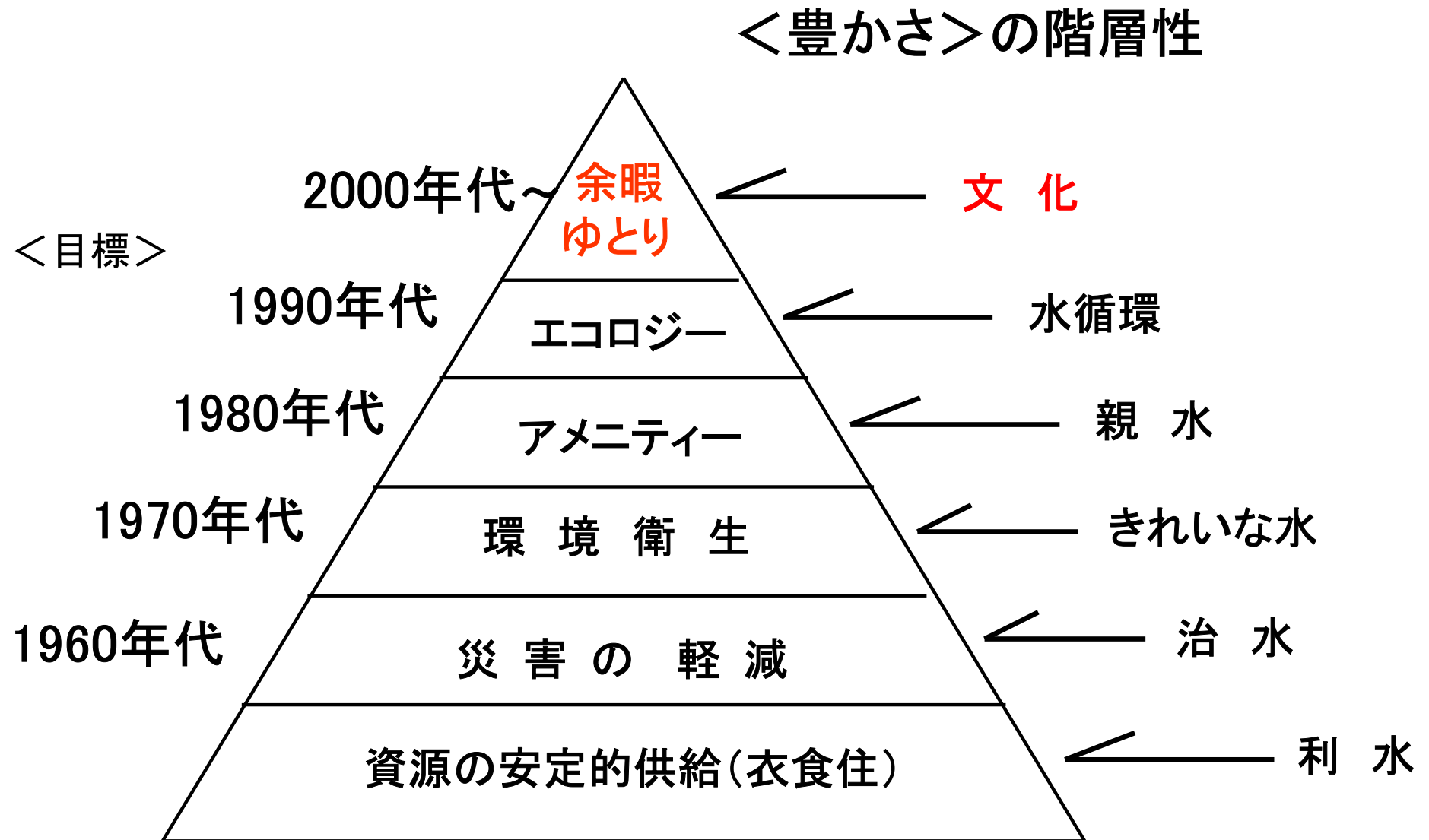
「河川文化」特集記事テーマの分類(意識／行為／対象化)

テーマ:「川と〇〇」

意識		行為(日常)		行為(非日常)		対象化(無形)		対象化(有形)	
ふれあう		こども		観光		うた		魚文化	
癒し		防災		コンテスト		戦い		特産物	
涼む		舟		祭り		民話		酒	
風景		水害と市民活動		釣り		文学		湧水	
桜		渡る		漁撈		源流文化		滝	
		交流				近世の治水技術		遺産	
		食文化		温泉		古代の治水と文化		鉄道	
		教育						疎水	
		市民の活動						城	
		舟運						橋	
		防災文化						流れを変える	
								近世の都市用水	
								森林	
								運河の歴史と文化	

* 分類できないテーマ:「ふるさとの川」、「地形」、「河口のまち」、「低平地」

河川のもつ価値とは？



河川環境の歴史的経緯

1960

1980

2000

河川と人の生活
の一次的な関係

川の存在、川の
変化を身近に感
じることのできる
関係(人の生活と
水辺の自然な関
わり)

高度経済成長期の
河川の近代化と河川
の変貌

川と人との一次的な
関係の喪失と疎外

水質悪化と湧水の涸
渇、都市水害の激化

アメニティー(快適さ)に
よる環境意識の転換

川の親水機能と都市
の中の水辺空間への
意識向上

親水公園や親水護岸
などの水辺整備

住民参加の新たな段階とパー
トナーシップ

川の文化的側面への関心の
高まりと川づくり

健全な水循環と良好な生態系
の創出

人と川との意識的・持続的関
係の創出

多自然型河川工法・湧水保全

公害の激化
河川の三面張り化

世界第二の
経済大国

バブル経済と
ライフスタイル
の変化

バブルの崩壊

エコロジカルな
河川環境と
水循環の保全

河川文化
暮らしと川のかかわり

環境問題の認識

1960年代まで 環境の基礎条件が満たされない

(negative な環境要素) 大気汚染・水質汚濁・騒音など

——— 戦後の焼け野原から高度経済成長による都市インフラの整備へ

1970年代 良好(クリーン)な環境

——— 高度経済成長によるひずみが噴出。都市化の急激な進行。

1980年代 快適(アメニティー)な環境

——— 世界第二の経済力を背景に、快適さへの関心から贅沢な土木事業

1990年代 地球と人と生き物にやさしい、
エコロジカルな環境

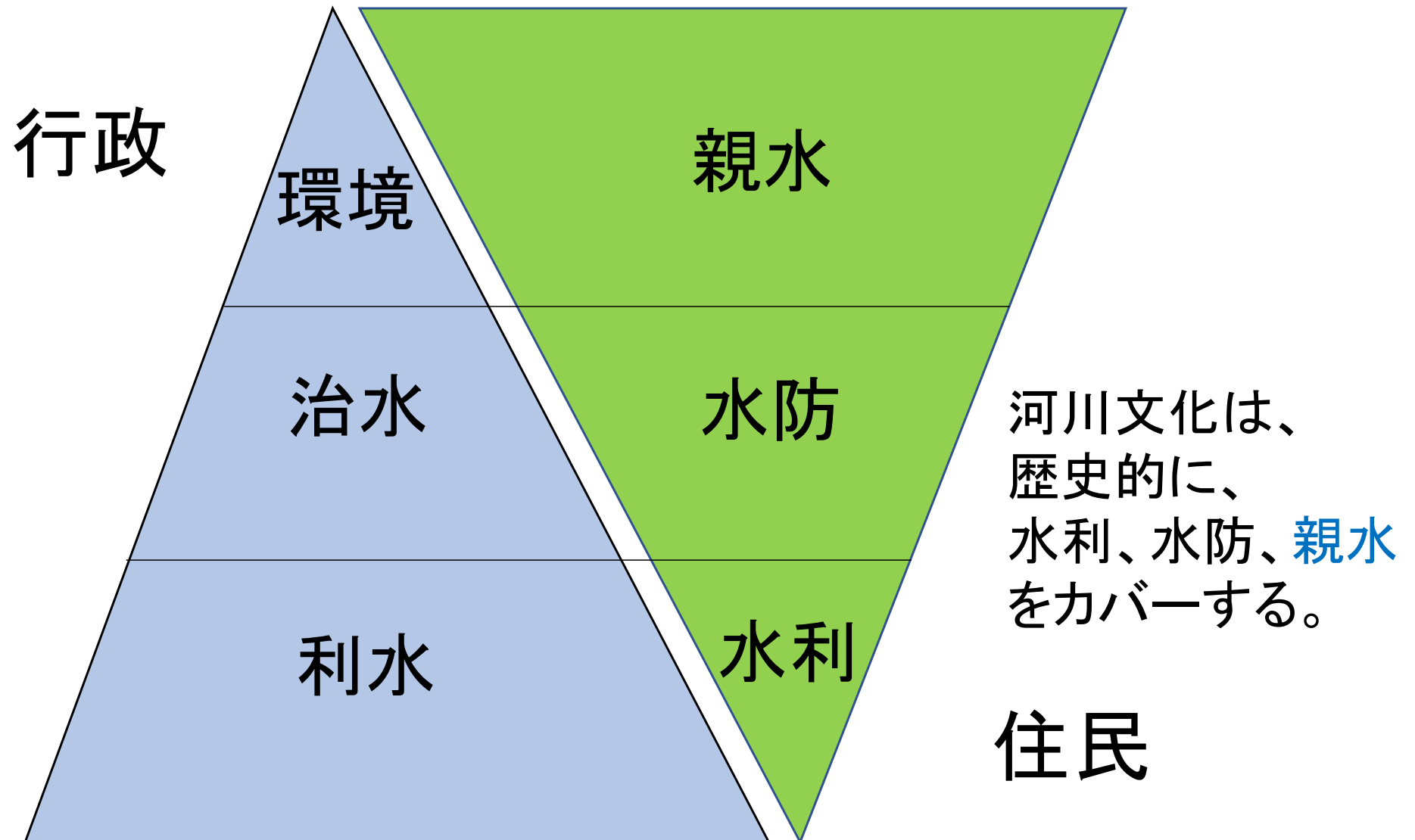
——— 失われた10年、取り戻す生きがい、NPOとボランティア

2000年以後 環境の時代から文化の時代へ

持続可能な環境、そして、ほんものの豊かさ

脱炭素社会？

河川文化の位置づけ（行政／住民）



親水、こそが河川とのかかわりの一歩

「私たち大人が、子供たちに一番やってあげなくてはならないことは、「川に親しむ」機会をより多く与えてあげることです。彼らは、「親しむ」ことにより、自然と「知る」に行き、やがて「守る」へ達するからです。」

「親水のススメ～子と共に～」

「河川文化」第23号巻頭言

ープロ・ナチュラリスト 佐々木 洋

* 都市に残っている自然(らしき)もの

- ・水循環という自然の営み
- ・水の循環に沿って人間と生物の営みがある

→＜自然＞の回復

* 都市という高密度空間におけるオープンスペース

- ・やすらぎや開放感という心理的効果
- ・都市のなかの景観としての要素

→＜広場＞の復権

「親水」という言葉

東京都建設局技師 山本彌四郎(1938－2017)

1938年12月 京都市左京区に生まれる

1959年4月 京都大学工学部入学

1965年3月 京都大学大学院修士課程修了 石原藤次郎教授門下

1965年4月 東京都土木技師として入都

東京都にて、江東治水事務所、河川部計画課、東京都土木技術研究所にて河川行政にかかわる

生まれ育った京都の河川環境と東京の河川の現実とのGAPから、都市河川のあるべき姿を追求し、＜親水＞という概念を提案。

II-151 都市河川の機能について

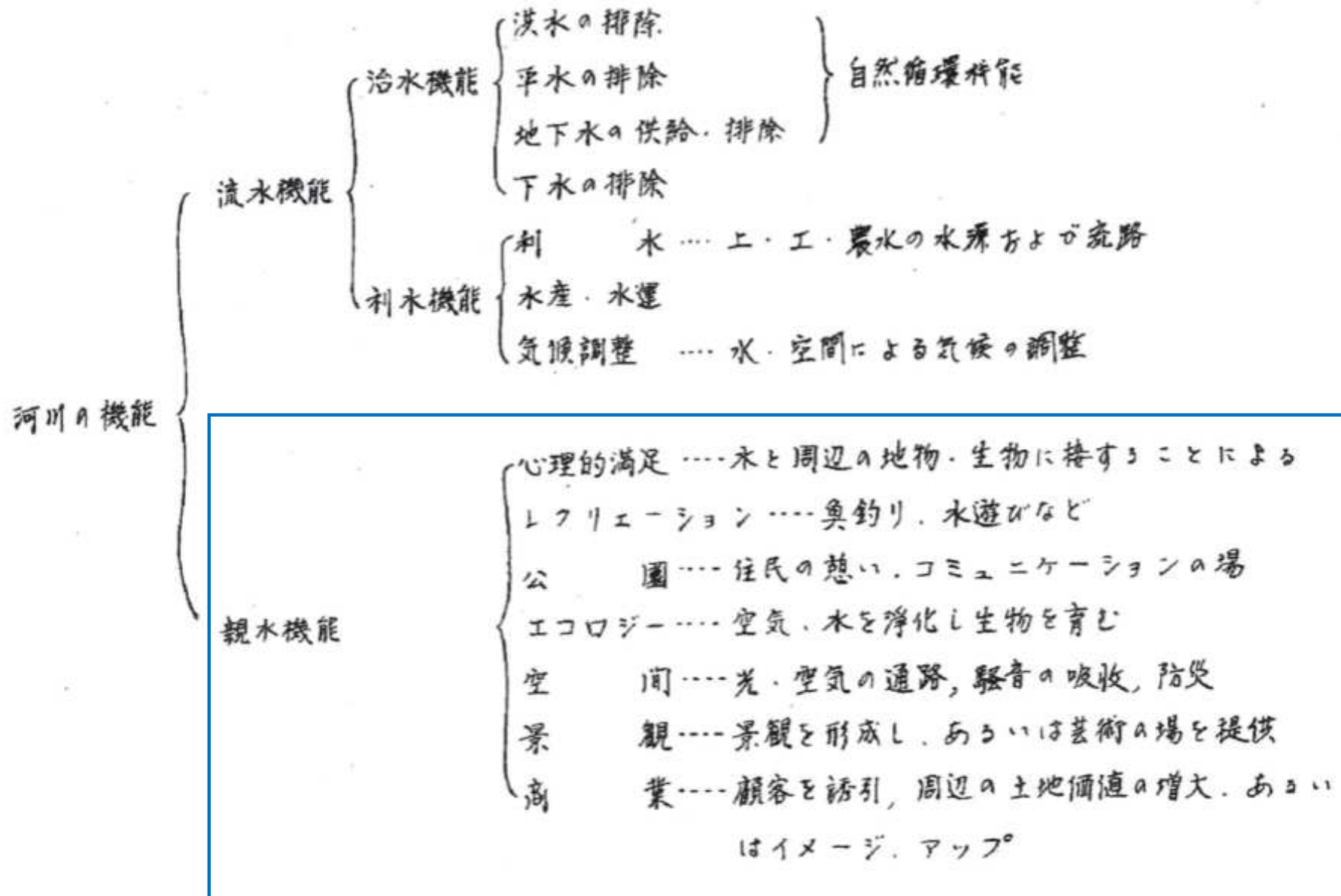
1971年土木学会年次学術講演会

東京都建設局河川部 正員 山本 弥四郎
(株)建設技術研究所 〇石井 弓 夫

すなわち河川の機能を次に示すように、大きく「流水」機能と「親水」機能とに分ける。前者は河川の物理的機能に重きを置いたもので、従来から認識されている機能である。これに対し 後者は「河川」が人間とのかかわり合いのもとに社会的に存在すること自体の持つ機能であって、いわゆるオ3機能、レクリエーション機能を含んだものである。これを「親」水機能と名付けた所以は、河川を主として人間の心理との関係においてとらえるからである。前回発表では「親水」を狭い意味－釣り、遊び場となること－で用いたが、ここでは「流水」と対置させて用いることとした。

河川の親水機能とは

1971年土木学会年次学術講演会



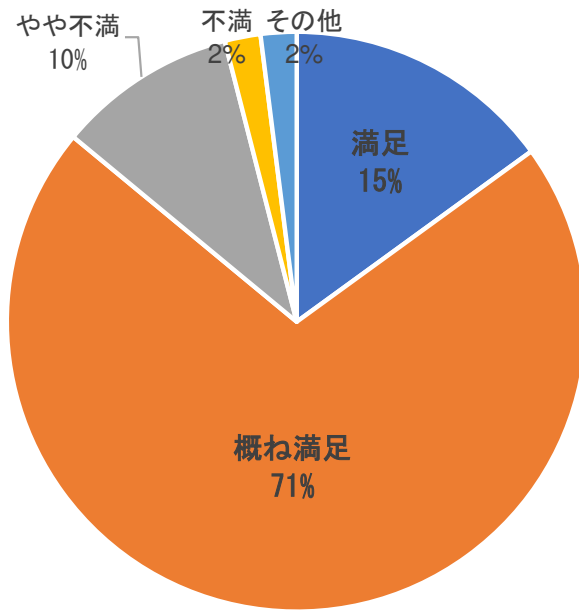
**新たな河川文化の創造へ
100号を超えて
2023～**

会報「河川文化」創刊100号 に向けた取り組み(1)

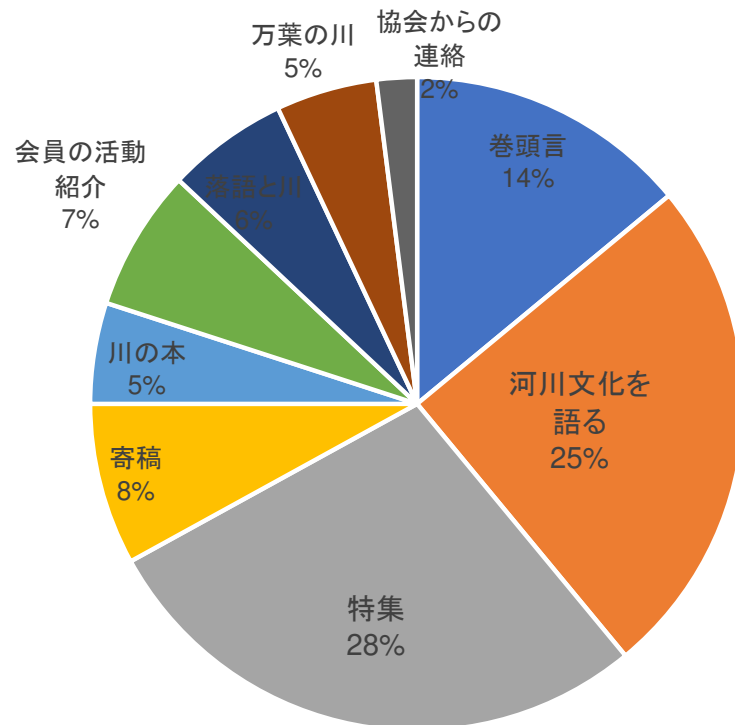
アンケートの実施(94号)

30%の会員から回答をいただき、会報について、「満足」「概ね満足」で86%という回答をいただいた。

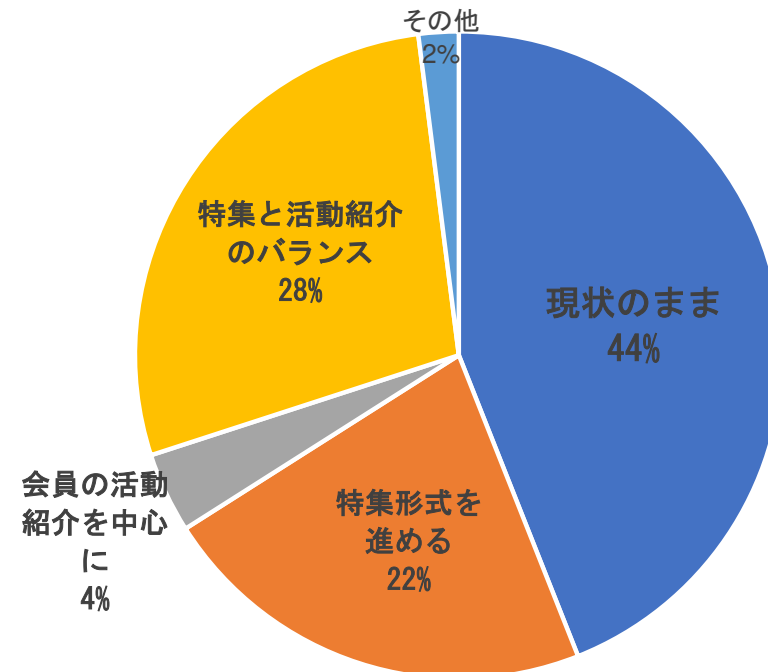
会報の構成については、「会員の活動紹介を中心に」、「特集と活動紹介のバランス良い構成」という意見が32%あり、「川の市民の誌上サロン」としての役割の重要性を確認した。



「河川文化」の満足度



「河川文化」で興味ある分野



構成についてどう感じているか 35

会報「河川文化」創刊100号に向けた取り組み(2)

- ①会報「河川文化」の全ての記事を**検索**できます。
- ②ホームページでご覧になる**会報「河川文化」**を**カラー**化しました。

会報「河川文化」の全ての記事を検索できます！

読者アンケートに寄せられた皆さまのご意見を受けて、当協会のHPから会報「河川文化」に掲載された全ての記事を必要事項によって検索し、閲覧できる会員サービスを開始します。

平成10年の創刊号から、最新号(97号)まで、24年間に集積された膨大なデータの中からあなたが求める必要な情報を瞬時に選び出し、それを保存できる便利なツールです。

①河川協会のHPにアクセスします。



②検索ページのトップから、コーナー名、特集名、著者、題名等により検索します。



【検索方法】

- ・発行年:「発行年から探す」
- ・号数:
「フリーワード検索」or
「発行年から探す」
- ・コーナー名、特集名:
「コーナー名から探す」or
「フリーワード検索」
- ・著者:「フリーワード検索」
- ・題名:「フリーワード検索」
- ・河川名・県名(地域名)等のキーワード:
「フリーワード検索」

③検索結果

たとえばフリーワード検索で「淀川」を記事検索した結果13本の記事が表示されます。

市民活動紹介の意義

～いま生まれつつある河川文化

親水：水辺（人と川のかかわりの場）の価値を高める
「白川わくわくランド」／カヌー体験／馬・ポニー／紙飛行機／凧あげ／熱気球／ボートウォーク（遊覧船）／水際コンサート／花火／桜並木と花見／医療（癒し効果）／リバーサイド・ウォークラリー／高齢者・障害者の利用（多摩川癒しの会）／緑の回廊／親水テラス／オープンカフェ／川床／川のガイドマップ／ビオトープづくり／水辺の環境学習／魚釣り（環境学習）／水辺定期市（水辺マルシェ）／インフラツーリズム／クルージング／水源地探索／

水防：流域治水と連動する水防行動の展開

地元レスキュー隊（おんぶ作戦隊）／安心・安全eコミュニティ／水制（木製）づくり／ライフ・レンジャー・ハイスクール／水防活動／民間会社・社会防災団／水害復旧ボランティアセンター／

水利：舟運の復権＝川が道になる

淀川水上タクシー／Eボート／市民団体が毎日無料で運行する舟運／クルーズ活動（富山県千保川）／

河川文化を豊かにする

1) 河川文化と、生き、暮らし、働く人間の余暇

- ・人間の生活を「生きる・暮らす・働く」の総体で捉える(内橋克人)
- ・余暇の増大と余暇の過ごし方・「豊かさ」とは？
- ・高齢化社会と老後の過ごし方

2) 河川文化とコミュニティー (住民/留民/市民)

- ・「まちづくり」と「かわづくり」
- ・自然発生的なものを理念的計画的な「かわづくり」へ
- ・かわづくりネットワーク(NGO, NPO・・・)

3) 河川文化と世代論

- ・川とのかかわりと世代の分断
- ・河川環境の激変を経験している中高年世代
(昔の川遊びや清流へのノスタルジックな思い)
- ・河川文化継承への環境教育の重要性

あなたと川のかかわりは？

(＝河川文化の深度)

私の「まち」は、こういう「まち」です、と人に話をするとき、
そこに川が入っているかどうか、
そこに身近な川や水辺が入っているか？

川はきれいになった、魚や鳥が戻ってきた。
しかし、そこに住んでいる人々の意識や生活のなかに
川が存在しているか？

ご清聴ありがとうございました